

# 平成28年度 事業計画

学校法人 東京薬科大学

## 目 次

1. はじめに	1
2. 事業計画の主旨	1
3. 重点事業	2
4. 主な事業	
(1) 教育改革	2
(2) 研究推進	3
(3) 社会貢献	4
(4) 入試改革・広報活動	4
(5) 学生支援、就職・キャリア支援	5
(6) 国際交流の推進	5
(7) 自己点検・評価、情報の公開	6
(8) 組織基盤の強化	6
(9) 教育・研究環境の整備	7
(10) 財政戦略	8

## 1. はじめに

今日、我が国は、少子高齢化やグローバル化の進展、雇用環境や地域社会・家族形態の変容、格差の再生産・固定化、地球規模の環境問題など様々な課題が顕在化し、依然として先行きが不確実な状況にある。このような中、高等教育、とりわけ大学においては教育研究の質を高め、高度な知識を教授し、科学技術・学術の発展に寄与することが、21世紀の知識基盤社会を支えていく上では極めて重要なことである。国や産業界など、社会が大学へ寄せる期待は大きく、大学はその期待に応えるため、自らの改革による新たな価値を主導・創造しつつ、培われた知識・技術を生かして社会に貢献できる多様な人材を育成、輩出すること、学術研究成果を広く社会へ提供することが求められている。

また、大学は、教育・研究の質が担保され、諸活動の点検及び改善を実施し、自主的・自立的に運営される機関であるからこそ、認証評価を通じ社会に対し大学の質を保証し、情報公開していく責務がある。

本学は、こうした内外の現状、社会からの要請等に鑑み、従来の取組みを更に充実させるとともに、時代に則した新たな教育・研究システムを展開し、薬学、生命科学分野の領域において揺るぎない地位を堅持すべく不断の改革を進めていく。

## 2. 事業計画の主旨

本学は、建学の精神「花咲け、薬学・生命科学」を基盤とし、大学の理念や基本方針を踏まえ、教育研究上の目的を「本学は教育基本法及び学校教育法の主旨に従い、ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を育成し、薬学並びに生命科学の領域における教育と研究を通じて、人類の福祉と世界の平和に貢献することを目的とする」と定めている。さらに、教学経営における三つの方針「学位授与の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)及び入学者受入方針(アドミッションポリシー)」を制定し、教育力の向上と活性化に向けて全学的に取り組んでいくとともに、研究面においては、薬学、生命科学領域の最先端の研究活動を展開することで、革新的・創造的な研究成果を生み出し、これを広く社会に還元することを目指す等、本学の教育研究機関としての社会的な役割を果たしていくものとしている。

生涯にわたり学び続け、主体的に物事を捉え、いかなる状況においても対応できる課題探求・問題解決能力を有し、その根幹を支えるための豊かな人間性と社会的責務を果たすに必要な高い使命感や倫理観を併せ持った人材を育成、輩出し、社会からの要請に応じていくため、平成28年度は以下に示す事業計画を策定、実行していくものとする。

### 【大学の理念】

「ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を育成し、薬学並びに生命科学の領域にて、人類の福祉と世界の平和に貢献する。」

## 【基本方針】

- ・ 学生中心のより良い教育環境を提供し、学生の学ぶ権利を尊重する。
- ・ 倫理の高揚を踏まえつつ、学問に裏づけられた質の高い教育を目指し、薬学並びに生命科学の分野で意欲的かつ高い能力のある人材を育成する。
- ・ 地域及び職域の教育機関として医療機関及び研究機関との連携を密にして、地域及び職域に貢献できる学校経営に努める。
- ・ 教職員一人ひとりが常に研鑽し、自らの成長と学生の学ぶ姿に喜びを感じる大学を創る。

## 3. 重点事業

### (1) 大学ビジョン、中長期計画の策定

我が国を取り巻く厳しい社会情勢の中、本学が建学の精神を基盤に、大学の理念、基本方針に基づく教育研究活動を将来に亘り維持、発展させるためには、大学運営の長期的展望、方向性を明確に示すことが極めて重要である。このため、創立 140 周年、さらには 150 周年をも視野に、将来の本学のあるべき姿を「大学ビジョン」として、また、そのビジョンを具現化するための「大学中長期計画」を策定すべく検討に着手する。

### (2) ファシリティマネジメントの充実強化と老朽化対策

現在のキャンパス環境を客観的視点により検証し、法令遵守、施設の危機管理を実施する。具体的には、大学中長期計画も考慮した形で、検証資料を根拠に、段階的な改善計画を可視化した上で将来を見据えた施設の事前予防対策、延命予防措置等を適宜講じていく。

## 4. 主な事業

### (1) 教育改革

#### ① 薬学部

平成 27 年度から導入された薬学教育改定モデル・コアカリキュラムを踏まえた新カリキュラムにおいて、教育課程編成・実施の方針に沿った効率的かつ効果的な薬学教育が遂行できるよう引き続き努めていく。また、特に設備更新も含めた薬学基礎実習教育の充実も図る。薬剤師国家試験対策について、学生の主体的な学習を推進するための対策を強化し、入学者全員の国家試験合格を目指す教育を展開する。

#### ② 生命科学部

アクティブラーニング授業、学生 FD 活動の継続的導入により、学生が主体的に学びの質を高め、教職員とともに教育環境の向上を図ることで学部全体の向学意欲の進展を目指す。また、高大連携活動の強化により教育研究活動の活性化を講じる。本年度は 3 学科体制の 4 年目を迎える。現行カリキュラムの検証を行う等、3 学科体制の完成年度以降を見据え、より充実した学部教育体制の検討を進めていく。

### ③ 大学院研究科

薬学研究科では、平成 27 年度に 4 年制博士課程初の修了者を輩出した。本年度は課程設置当初の教育研究計画と 4 年間の状況及び成果を踏まえた総括を実施し、社会に対し公表する。また、生命科学研究科では、博士後期課程においてコースワークを適切に組み合わせカリキュラムの充実を図る。両研究科ともに、国際的に通用する研究者・技術者の養成も目指し、グローバルな視点に立った人材育成に努めていく。加えて、教員、大学院生に、研究者として必要な倫理教育を行い、研究の不正行為等が発生しない土壌作りに継続的に取り組んでいく。

### ④ 寄附講座の運営

平成 26 年度に開設したウエルシアホールディングス株式会社の寄附講座「和漢薬物学講座」の更なる運営充実を図り、本学教育研究の多様化、活発化に資する取組みとして展開する。

## (2) 研究推進

### ① 研究ブランディング事業の推進

大学全入時代、2018 年問題（志願者数の減少）等、大学は厳しい競争環境に置かれており、これを背景に大学はステークホルダーに選ばれるための強いブランド力が求められるようになってきている。本学は、私立大学における薬学、生命科学分野のパイオニアとして、学長のリーダーシップの下、両学部共同のプロジェクトを立ち上げ、独自色豊か且つ本学の強みを伸長させる研究課題に全学的に取り組む、研究ブランド力を打ち出していく。なお、本研究事業の実施にあたっては、平成 28 年度から創設される文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」への補助金申請も目指す。

### ② 大型研究装置・設備の管理、運営

共同機器等大型装置・設備の全学的な管理、運営体制の基盤を構築すべく、継続的に検討を進めていく。

### ③ 外部資金獲得の拡充、知的財産に関する取組の充実

科学研究費補助金、受託研究費、また、文部科学省の各種支援事業等、競争的外部資金の獲得、拡充を進め、財務体質の強化も念頭に置き、教育・研究活動の一層の活性化を図る。また、研究の成果として生じる知的財産等への対応については、マネジメント体制の整備、知識向上のための講習会の開催等、特許・知財の業務基盤作りを計画的に実行する。

### ④ 公的研究費の管理・運営、研究不正防止体制の強化

文部科学省策定の研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）、研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン及び本学関連規程に基づき、より適切な研究費の管理・運営、研究不正防止体制の構築を目指す。

### ⑤ 他研究機関等との連携推進

医薬工三大学（本学、東京医科大学、工学院大学）、姉妹校（東京医科大

学、杏林大学)等との連携を推進する。また、平成27年度に設置した産学官共同研究推進センター委員会を中心に、本学研究成果の産業界への還元、ブランド力向上のための取組を活発化させる。

#### ⑥ 図書館・情報センターの情報活用

電子ジャーナル・データベース等について、ユーザーからの意見も踏まえ、費用対効果を考慮した効率的運用を図っていく。

### (3) 社会貢献

#### ① 薬用植物園の公開

例年定期開催している「公開講座と見学会」等、東京都最大の規模(約41,000㎡)を誇り、本学生涯学習の重要な施設ともなる同園の積極的活用に努める。

#### ② 近隣自治体等との連携

大学コンソーシアム八王子の各種連携事業、日野市における地域の医療と産業に関する産学官連携事業に継続的に参画する。また、本学は平成27年12月、八王子市と「包括連携協定」を締結した。これにより地域の課題解決や活性化のため幅広い分野で連携、協力の強化を図り、本学教育・研究の充実及び地域社会の発展を目指す。

#### ③ 東海大学医学部附属八王子病院との連携

本学は平成27年8月、東海大学医学部附属八王子病院と「地域交流事業協定」を締結した。本協定締結を機に今後双方の関係を強化し、協働事業等に取り組むとともに、地域の災害対応の一翼も担っていく。

#### ④ 八王子薬剤師会との連携

本学と八王子薬剤師会との間で発足した地域連携協議会により、小中学校での薬の適正使用教育及び薬物乱用防止教育等に引き続き取り組んでいく。

#### ⑤ 卒後・生涯教育の充実

本学は、薬剤師再教育のための卒後教育講座を1974(昭和49)年から実施している。近年の医療現場における薬剤師の役割と責任の増大に伴い、薬剤師の再教育の重要性が益々高まっている現状を踏まえ、薬剤師が必要とする知識・技能の研鑽の機会を継続的に提供する。

### (4) 入試改革・広報活動

#### ① 学部入試

平成29年度入試選抜方法変更に対応した入試業務運用システムを構築し、円滑な運営を行うとともに、入学試験の実施体制及びチェック体制を強化し、入試ミス防止に万全を期す。入試改革においては、文部科学省における中央教育審議会(答申)、高大接続改革実行プラン施策及び高大接続システム改革会議での検討結果等、国の動向を踏まえ計画的且つ確実に実行していく。

## ②大学院入試

薬学専攻、生命科学専攻博士（後期）課程への社会人受入体制を強化すること、また、薬学研究科にあっては、平成 27 年度より導入した向学心旺盛な海外学生の受入れについて継続的に取り組んでいく。平成 29 年度入試業務においても、学部と同様、円滑な運営に努め、入学試験の実施、チェック体制をより充実させる。

## ③大学広報の強化

平成 26 年度に全面的リニューアルした大学のホームページに加え、両学部のホームページをリニューアルすることで更なる情報発信力強化を図る。また、オープンキャンパス来場者数の前年度比増を目指すとともに、大学ポータルサイトへ積極的な大学情報を掲載する等、大学認知度の一層の向上、受験生への情報発信の強化につなげる。

## (5) 学生支援、就職・キャリア支援

### ①奨学金制度の充実

奨学金対象者の選定方法の見直し、適切な運用の改善に向け、時代のニーズを踏まえて恒常的に取り組む。

### ②学生生活の支援充実

保健室、学生相談室体制、健康診断体制を一層充実させるとともに、学生生活の実態把握にも努めることで、学生の健康的な生活の向上を推進する。また、平成 26 年度からのキャンパス内全面禁煙実施を踏まえ、禁煙励行と禁煙キャンペーンならびに社会マナー改善に資する取り組みを展開する。さらには、平成 28 年度より施行された「障害者差別解消法」に基づき、障害学生修学支援に取り組んでいく。

### ③学生の就職力強化

キャリア支援、就職サポート体制の再構築を図る。キャリア講座の見直し、各種講座及びイベントへの参加率アップ及び学生の個別支援体制を充実させる等、学生の就職力強化の取り組みを通じ、就職率の前年度比向上につなげる。

### ④薬学部実務実習体制の充実

平成 31 年度（一部 30 年度）より開始される改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習ガイドラインを遵守した実習施設の確保及び病院・薬局との連携システムの確立に向けた対応準備を行う。また、指導薬剤師養成のワークショップ、アドバンスワークショップを継続して実施し、質の高い指導薬剤師の養成、確保に努める。

## (6) 国際交流の推進

### ①海外大学等との連携推進

本学は、国際的視野を持った学生、大学院生、教職員の育成を目指し、これまで 30 年もの間、主にアメリカ、中国の大学等と国際交流に取り組ん

であり、近年、韓国、台湾、ベトナムとの交流も開始した。本年度も本学に有意義となる交流事業の展開を念頭に置き、活動の推進を図っていく。なお、特に中国中医科学院との交流では、平成 27 年 11 月、大学院博士課程（薬学）における「ダブル・ディグリー協定」を締結した。これにより、今後、本制度に則ったプログラムを履修することで、両機関において博士号を同時に取得できることになり、双方の更なる交流進展が図られるとともに、国の方向性にも合致した、優秀な学生の受入れ、派遣を通じた国際的な視野をもつ人材育成等、質の保証を伴った大学間交流の促進と国際競争力の向上に資する取組みが構築された。

## (7) 自己点検・評価、情報の公開

### ①自己点検・評価活動

本学は、平成 25 年度に実施された大学基準協会による認証評価（大学基準に適合認定）に続き、平成 27 年度に薬学教育評価機構による本評価を受け、同機構が定める評価基準に適合していると認定された。今回の評価を今後の薬学部教育研究活動に速やかに反映させるとともに、全学的な自己点検・評価の恒常的な取組みを推進する。

### ②大学情報の積極的公開

平成 22 年に行われた学校教育法施行規則の改正により、本学は積極的な情報公表に努めている。また、本規則改正に基づき国公私立を通じた情報発信の仕組みとして、平成 26 年度より大学ポर्टレートの稼働が開始された。本学も本ポर्टレート（私学版）（サイト管理：日本私立学校振興・共済事業団）に参加しており、本学が教育機関としての説明責任と教育の質保証、向上という責務を果たすため、これら取組みを継続的に実施する。

## (8) 組織基盤の強化

### ①大学ガバナンスの確立

学長の指揮命令権と教授会の役割を明確に示した学校教育法の改正（平成 27 年 4 月施行）、その他各種法令の趣旨に則り大学運営を展開する。大学経営を担う理事会、学長のガバナンスとマネジメント機能の促進を図り、大学を取り巻く社会状況の変化に対処していく。また、監査機能を充実させ、法人監事、内部監査室による監査の更なる実効性の向上を図るとともに、監査法人との三者間の交流を強化する。

### ②機能的な教員組織の構築等

教員組織の適切性、薬学部教員の充足率の課題について、学長を中心に検証を行っていく。また、教員の資質向上のための研修等については、全学 FD 実施委員会を中心に恒常的に企画・運営し、ワークショップや講演会の機会を設けていく。事務職員においては、本学 SD 活動方針に基づき、知識習得や資質向上のための取組みを積極的に実施する。

### ③業績評価制度体制の構築

教員の教育・研究活動の業績評価については、全学統一の評価基準の策定を推進する。そのための基礎データともなる、各教員の教育研究情報を一元管理するコンピュータシステムに平成 27 年度までの情報を蓄積し、その上で評価制度導入へ向けた体制整備を図る。また、本評価システムの事務職員への準用についても併せて検討を進める。

### ④IR (Institutional Research) 活動の推進

平成 27 年度に IR の活動母体となる IR 推進会議の活動方針を定め、IR の目的である、大学が保有するすべての情報の収集、管理、分析、可視化を図り、経営判断、長期計画・政策、教育改善、質保証及び大学運営の改善に資する答申、報告、政策提案を行うものとした。本方針を踏まえ、本学 IR 実施体制を整備するための取組みを平成 31 年度までを目途に逐次展開していく。

### ⑤リスクマネジメント体制の確立

従前からの計画を踏まえ、災害発生時に対応できる組織体制の充実、強化を進め、災害時対応マニュアルに基づく即応体制の整備と BCP 策定を図る。また、学内の安全強化のため現行の防犯体制を再検証し、対策を計画的に実施する。人的リスク等に対しては、国等の示す各種指針に準拠したコンプライアンス体制を堅実化させる。一方、本学が所持する情報資産について、マイナンバー制度も導入され、情報の安全を確保する必要性がより高まっている。その対策を講じるべく本年度は「情報セキュリティポリシー」の策定、また、情報の取扱いを含んだ各種現行規程の検証を行い、情報セキュリティに関する規程を整備・更新する。

### ⑥一般財団法人東京薬科大学附属社会医療研究所、

#### 一般財団法人東京薬科大学附属ヘルスケア研究所との事業連携

平成 27 年 7 月、本学は（一財）東京薬科大学附属ヘルスケア研究所を新設した。ヘルスケアの 3 本柱である「医療」「介護」「福祉」の領域における学会運営・活動を主導することで、臨床に強い本学のブランド化を進める。（一財）東京薬科大学附属社会医療研究所が担う研究奨励、教育研究環境充実への助成及び社会医療に関する各種事業と併せ、両財団との連携を強化し、本学の一層の発展向上を目指す。

### ⑦東薬会、後援会との連携推進

一般社団法人東京薬科大学同窓会東薬会、東京薬科大学後援会との連携を図り、本学の運営、教育、研究及び社会貢献の促進のため有機的な関係を維持、継続していく。

## (9) 教育・研究環境の整備

### ①社会医療研究センター・大学附属薬局の運営

本学は平成 24 年に大学附属社会医療研究所を設立、平成 26 年 6 月、東海大学医学部附属八王子病院前に大学附属社会医療研究センターを開設

し、施設内に同研究所が運営する日本最大級の規模の附属薬局を併設した。薬学生の十分な研修スペースを確保した実務実習研修施設である同センターは、平成 27 年度、文部科学省より「施設全体を校舎とする」証明を受けた。今後は、同センターの運営検証も踏まえ、更なる本学実務実習教育体制の整備、充実に取り組んでいく。

## ②IT 推進体制の整備

高度情報化社会、知識基盤社会のなか、本学も多方面にネットワークを展開し、多数の機器及びコンピュータシステムを運用している。事業執行にあたっては「情報教育研究センター」「情報システム課」を配置し、IT 推進の体制整備を図ってきた。本年度は、学内既存システムの保守管理、セキュリティ対策の強化に努めるとともに、新たな事業として、特に学内の無線 LAN 設置を計画的に実施し、ネット環境を充実させ、講義、実習の効率化、利便性の向上を目指す。

## ③都心キャンパスの検討

大学全入時代、2018 年問題等を背景に、定員の確保やより質の高い学生を獲得するため、多くの大学が郊外等からの都心回帰に取り組み、実績を上げている大学が多々生じている。八王子市に移転して 40 年、これからの厳しい時代を乗り越え、安定した大学経営・運営を展開するための方策として、都心キャンパス設置を検討することは、本学にとって極めて重要な課題である。今後もこの課題の対応に継続的に取り組んでいく。

## ④学生の通学利便性向上のための対策

平成 26 年 11 月 17 日より豊田駅南口からのスクールバス運行が開始された。これにより、交通渋滞が多発する道路の通行が回避され、大学までの所要時間が大幅に短縮された。現在再開発事業が進んでいる豊田駅南口周辺の動向も踏まえ、今後もスクールバス、路線バス運行の更なる改善のため多面的な検討を重ねていく。

## ⑤本学史料館開設

本学は日本最古の私立薬学教育機関であり、その責務の一端も併せ持つ、日本の薬学史を俯瞰する史料を備えた「史料館」を整備する。創立 140 周年時のフルオープンを目指し、今後、薬学及び生命科学の発展に関わる学術的、博物学的価値を有する史料を広く蒐集し、その成果を積極的に公開していく。

# (10) 財政戦略

## ①本学の財務状況

本学の財務状況について、単年度の財務諸表（平成 26 年度決算ベース）でみると消費収支比率が 103.7%及び帰属収支差額比率が 7.5%と平成 25 年度（消費収支比率 112.1%/帰属収支差額比率 6.5%）より若干改善され、収支のバランスは健全な状況にある。個別で見れば人件費比率（43.6%）が平均（平成 26 年度私立大学平均 50.9%）より 7.2 ポイ

ント低く抑えられ、教育研究費比率（38.7%）が平均（平成 26 年度私立大学平均 31.2%）より 7.5 ポイント高い状態にあり、資金の有効配分を考慮した質の高い教育研究活動が行われていることがわかる。運用資産余裕率（1.01 年）については、一部借入金の返済が完了したため平成 25 年度（0.838 年）より改善されたが、平均（平成 26 年度私立大学平均運用資産余裕率 1.8 年）よりも低く、これらを改善するため、一層の緊縮財政政策の実施を検討しなければならない。

## ② 予算編成

長期的な視野に立てば、光熱水費の高騰、人件費支出及び委託料支出の増加等により支出増が見込まれる要因が多々あり、一層収支バランスに留意しつつ予算執行を行う必要がある。そのため、平成 28 年度より業務目的別予算管理方式を導入した。当該方式を導入することで、より厳密な予算執行管理が可能となり、無駄な出費を排除しつつ予算と決算の乖離幅を縮小することができる。これにより平成 28 年度は、教育・研究への投資、老朽化した施設の改修工事及び将来に向けた資金確保等を目標に、計画性と費用対効果に重点をおいた予算編成となった。今後もより一層の緊縮財政と質の高い教育・研究とそれに伴う環境整備への投資ということを考慮し、予算の選択・集中と経費節減の両立を目指したい。また、各学部に起因する収入に相応した予算編成、更なる経営健全性の担保、予算の精度向上等の観点から、学部毎の独立採算制導入に向けた取組みを図る。手順としては、平成 28 年度の予算執行実績を踏まえ、より詳細な検証を行った上、平成 29 年度からの導入を目途とし具体的な実施方法を検討していく。

## ③ 平成 28 年度予算計上した主な事業

### ○教育・研究の設備整備充実事業

- ・教育棟・研究棟等既存校舎整備事業  
（教育棟トイレ改修事業／学内空調改修事業／学内 LED 化事業 等）
- ・大型共同機器の購入  
（高性能飛行時間型質量分析装置 等）
- ・実習用エバポレーターの無水アスピレーター化事業

### ○ネットワーク・システム関連事業

- ・構内無線 LAN 化事業
- ・ネットワーク・サーバ等更新整備事業

## ④ 東京薬科大学基金の充実

平成 26 年度に創設した「東京薬科大学基金」は、寄附者の意向をより反映できるよう用途を指定することを可能とし、本学諸活動への多岐にわたる支援と協力を募るものである。平成 28 年度は基金の運営体制を強化し、企業等、個人への積極的な周知活動を展開することで、本学教育研究の一層の充実につながるよう努める。

以上